投資ファンドの実力

出資前から経営関与

サイペックなど半導体関連のベンチャー企業三社は七月一日、合併する。三社に投資し、取締役として経営に参画する日本テクノロジーベンチャーパートナーズの村口和孝代表は合併交渉を側面から支援した。

半導体業界を取り巻く環境は厳しい。村口氏は「早期の株式上場を実現するには、合併して企業規模を拡大すべきだ」と強調する。三社のうち二社の社長を務める村川順之氏は「法務や財務面で上場を準備するには、多くの企業を知る村口氏の助言が必要」と語る。

村口氏はジャフコに勤務、北海道で七年半働いた。企業の発掘から上場まで担当し、同社有数の投資実績を残した。

企業育成には米国のように個人が一貫して深く関与すべきだという理念を実践するため一九九八年に独立。四本のファンドで約六十億円を集めた。資金は堀場製作所の堀場雅夫会長ら投資方針に共感した企業経営者から募った。

ベンチャー経営にも詳しい堀場氏は、三社合併をまとめたことについて「創業前後から経営に関与し、取締役会でも発言してきたから説得力があった」と評価する。村口氏は取締役会の活性化が重要と考える。成長できない企業の取締役会は経営者の独演会に陥るなど機能していないことが多いとみているからだ。

システム開発のトリニティーセキュリティーシステムズが六月十九日に開いた取締役会は販売手法がテーマだった。村口氏は複数の選択肢を提示し、ただ答申を準備した。議論が収れんしそうになると「それでいいのか」と揺さぶり、適切な経営判断を促した。取締役会の席から専門家に電話をかけて情報を収集することもある。

起業家への助言は出資前から始まる。ネット販売のディー・エヌ・エーは九九年秋、サービス開始直前にシステムの不調が発覚した。南場智子社長は以前から相談していた村口氏に連絡。村口氏はまだ出資していないにもかかわらず、四十八時間動き回り、システムの再構築にめどを付けた。

評判を聞き、創業前から相談に来る起業家が増えている。村口氏は成長性が高いと判断すれば、高い株価で投資する。経営陣の持ち株比率は一定割合を確保し、主体的な経営を促す。

ただ同時期に設立した他のベンチャーキャピタル（VC）に比べて投資資金の回収は遅れ気味だ。投資先は技術開発型が多いため先行投資負担が重く、製品化に時間がかかる。情報技術（IT）不況も足を引っ張った。

三社合併を考慮すると投資先は十四社。株価を引き下げた増資にも応じ、投資先の過半が黒字転換したが、本格的に経営に関与した企業の上場はない。少額を多くの企業に投資する一般的なVCに比べ、成功時の収穫が大きい半面、リスクも大きいとの見方もある。

投資先の取締役・監査役を務めるのは村口氏が八社に対し、他の投資担当者十人は合計で三社にとどまる。年内にも次のファンドを設立し、投資対象を半導体やIT以外に広げる。経営関与を続けて投資収益率を高めるには、村口氏を支える人材の育成が欠かせない。

日本テクノロジーベンチャーパートナーズ

〈会社概要〉 本社　東京都千代田区
代表　村口和孝氏
ファンド規模　60億円弱

主な投資先企業

投資先企業	本社所在地	事業内容	投資時期
インフォテリア	東京・品川	XMLベースのサーバーシステム	99年3月
ディー・エヌ・エー	東京・渋谷	ネットオークションシステム	99年12月
イチレイヨン	東京・文京	モバイル用データベース	00年1月
トリニティーセキュリティーシステムズ	東京・品川	セキュリティーシステム	00年4月
ノース	東京・豊島	高密度実装技術の開発	00年4月
ナイトライド・セミコンダクター	徳島県鳴門市	窒化ガリウム半導体の開発	00年6月
サイペック	東京・文京	半導体開発・製造の支援	00年7月